

## ノース・ダコタ州：小麦作柄と気象状況

2005年7月19日

### 2005年7月17日概況：

7月17日に終わる1週間の気温は高温・比較的乾燥気象であった。平均気温は各地の観測所で平年を2～6度F上回った。週の初めは最高気温は80度台であったが前週と同様に週の終わりに掛け、気温は上昇し最高気温は90度半ばから100度F(SW地区)を超えた。同時に湿度が増した。最低気温は前週より高く51～62度の間であった。1週間の降水量は少なく、中央部から中央南部では0.00～0.06インチ、最も多かったのはNWの0.72インチであった。1週間の農作業稼働日数は6.2日(前週:5.4日)であった。土壌水分は“過多”が減少し、Subsoilは前週の状況より良くなった。HRSは91%が出穂し、58%が乳熟期となった。そして全体の19%が登熟を開始した。Durum小麦は71%が出穂、32%が乳熟期、4%が登熟期となった。HRS及びDurumとも昨年並びに5年平均より早い生殖成長をしている。

HRSの作柄は“Excellent”の評価が減少し、“Good”及び“Fair”が増えた。一方、“Very Poor”の小麦は無くなった。小麦は水分を必要とする時期である。

7月1日付けUSDA発表のHRS及びDurum小麦の生産量予想では、HRSの単位収量は昨年実績と同数の41.0 bu/acであり、Durumは昨年実績より1 bu/ac多い34.0 bu/acであった。播種期が早めであったこと、その後の出穂期までの天候が生育に適し降雨が全般に多かった事がプラス要因であった。

詳細は別表の通り。

### 土壌水分：2005年7月17日現在

	This Week	Last Week	Last Year	5-Yr Average
<b>Topsoil</b>				
Very Short (%)	0	0	4	6
Short (%)	3	0	11	15
Adequate (%)	74	71	71	69
Surplus (%)	23	29	14	10
<b>Subsoil</b>				
Very short (%)	1	1	13	8
Short (%)	6	4	15	15
Adequate (%)	68	65	56	67
Surplus (%)	25	30	16	10

### 小麦生育状況：2005年7月17日現在

	This week	Last week	Last year	5-Year Ave.
<b>Durum Wheat</b>				
Boot (%)	75	56	54	64
Headed (%)	52	31	34	37
Milk (%)	13	5	5	10
Turning (%)	0	NA	0	1

HRS Wheat				
Boot (%)	95	79	82	85
Headed (%)	81	56	64	66
Milk (%)	34	10	19	26
Turning (%)	0	NA	2	4

HRS 小麦の作柄 : 2005 年 7 月 17 日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This Week (%)	0	3	17	62	18
Last Week (%)	1	4	14	58	23

Durum 小麦の作柄状況 : 2005 年 7 月 1 日現在 :

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This Week (%)	0	1	9	63	27
Last Week (%)	0	1	8	64	27

Source: ND Agricultural Statistics Service

2005 年 7 月 1 日付け USDA 生産量予想 :

	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				June 1	July 1		
HRS	5,950	6,600	41.0	-	41.0	243,950	270,600
State	13,174	13,637	43.2	-	43.2	568,918	588,740
Durum	1,600	1,700	33.0	-	34.0	52,800	57,800
State	2,363	2,453	38.0	-	38.4	89,893	94,075

当該作柄レポートへのご質問・ご意見は下記宛てにお願い致します。

小川正晃: E-mail [ogawa.max@omicnet.com](mailto:ogawa.max@omicnet.com)